

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900284		
法人名	医療法人内田会		
事業所名	グループホーム「虹」		
所在地	徳島県三好市池田町中西フロノタニ1446-2		
自己評価作成日	令和元年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一法人内に医療機関、介護老人保健施設、デイケア、サービス付き高齢者向け住宅があり利用者の希望や状態、必要性に応じて幅広いサービスを受けることができ、急変時には迅速で適切な対応が取れる体制を構築している。

事業所の理念、家庭的な環境づくり、個性を大切に、地域・家族とのふれあいという理念に沿った支援を心がけており、家庭的な環境の中で住み慣れた地域で自分らしく生活できる。繋がりを大切にし地域行事の参加やボランティアの受け入れ地元小学生とのふれあいや家族との交流を施設に入居されても変わることなく継続できる。又、同一法人内での交流も持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者の好みや力を活かしつつ、職員と一緒に食事の準備や後片付け、洗濯たたみなど、一人ひとりの生活習慣を尊重し、自分らしい暮らしが続けられるよう支援している。職員や利用者、家族とともに地域の行事やイベントに参加するなどして、利用者が地域と繋がりがながら暮らし続けられるよう支援している。地域の各種会議にも参加し、具体的な災害時の協力を依頼したり、グループホームや認知症について周知する機会を設けたりしている。地域の小学生との交流は、利用者の楽しみとなっている。管理者は、職員の資格取得等を積極的に支援しており、働く意欲や専門性の向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境づくり、個性を大切に、地域家族とのふれあいを理念に職員が一丸となって支援に取り組んでいる。毎朝の朝礼時にも復唱し再確認を行い、全員が共通理念を持ち実践に繋がっている。	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえ、利用者の個性を大切に理念を掲げている。全職員で話しあい、短く、覚えやすい理念に変更するなど、共有化を図りやすい工夫している。職員は、毎朝の朝礼で理念を唱和し、再確認しながら、支援の実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事で地元小学生や阿波踊りの連の訪問があったり、お祭りや一斉清掃などにも積極的に参加している。	事業所では、近隣の方たちとともに子どものマラソン大会の応援をするなど、地域の行事に参加し、交流している。年3回、地元の小学生と交流を図っている。阿波踊りや子ども神輿の来訪を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに必ず地域の方に参加して頂き事業所の取り組みや現状を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回現状報告や意見交換を行っている。そこで出た意見は職員で話し合いを持ち改善に向けて努力している。運営推進会議にも消防署や駐在所にも声をかけ可能な場合は参加して頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の現状や課題について報告し、出席者と意見交換を行っている。災害時の協力についても依頼し、協力体制を構築している。出された意見について、職員間で共有化に努めているが、議事録に詳しく記載し、共有するまでには至っていない。	今後は、会議の議論の内容について議事録に記載し、職員間でさらなる共有化に努められたい。また、議題等の検討結果の報告等についても議事録に記載し、共有化を図り、支援に繋がっていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	みよし広域連合の保険者や包括支援センター等行政関係者に運営推進会議に参加して頂き日頃の施設の取り組みや現状を報告したり、意見を伺う機会があり協力を得られやすい。	職員は、日ごろから市の担当窓口を訪問し、事業所の現状を報告するとともに、運営や課題について相談している。担当者から情報や助言を得て、支援に活かすなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 管理者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議に身体拘束適正化委員会も設けており定期的に話し合いがもたれている。職員が勉強会に参加している。玄関の施錠は自動的に行うシステムになっているが求めに応じその都度開錠している。	事業所では、身体拘束の廃止に向けた勉強会を実施したり、ミーティング等の際に話しあったりして、職員の理解を深めている。職員は、法人内の研修にも参加している。利用者の安全に配慮し、一人ひとりの自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行いどのような行為が虐待になるのか具体的に学べる機会を設けている。日頃の業務においても職員間で相互確認しながら業務を行っている。又職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っている。過去において日常生活自立支援事業の活用経験があり、その時に制度について学べる機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や改定の際には書面及び口頭で説明を行っており疑問点は残さないよう心掛けている。又、それ以外でも質問があればその都度説明を行い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の家族会でアンケート用紙を事前に渡し無記名で記入して頂き意見や要望を聴いている。回収した要望などは施設の会議などで話し合い改善している。すぐに実践できるものはすぐに対応している。	職員は、日ごろから利用者や家族が話しやすい雰囲気作りを努めている。毎月、家族に利用者の日ごろの様子を報告し、意見を引き出すことができるよう工夫している。年1回、家族会の前にアンケートを実施し、意見や要望をきいている。出された意見や要望は職員間で話しあい、運営面に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会など職員間で意見を述べる機会を設けており、会議には理事長、事務長、施設長も参加しており職員の意見を聴く機会がある。又、個別に施設長が職員と話をする機会も日常を通してある。	管理者は、日ごろから職員とコミュニケーションを図り、職員が意見を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や提案は、管理者が代表者に伝え、検討している。職員が働く意欲を持続けられるよう、職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務評価は適切に行えている。又職員の意見に耳を傾けやりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて実務者研修にも30年元年度それぞれ2名参加している。シフト調整は優先的に行い資格取得に向けたスキルアップがし易い環境である。内外の研修にも参加出来るよう情報提供も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者との交流を図る機会が多い。他施設やケアマネジャーのネットワークで情報収取や連携を図れている。近隣に事業者が多い事も有り訪問し話し合う機会もあり質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人、家族共に不安も多い為十分なアセスメントをしたうえで傾聴しながら不安を取り除けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見や要望、不安に思うことなどを聴きながら施設で出来る事、出来ない事など分かり易く説明している。施設に気軽によって頂き施設の現状やスタッフとの会話で信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い関連施設やそれ以外の施設でも相談者の状態に応じて適切な利用が出来るよう説明を行っている。必要であれば問い合わせを行いサービスが滞らないよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設に入居されている方も職員も一つの家族のような関係づくりができており自然に生活出来ており遠慮なく言い合える関係づくりができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度担当が記入したメッセージカードを郵送し入居者様の施設での様子や行事など伝えている。ご家族様と連携を図り入居者様を共に支えていくうえで信頼関係を深め連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に施設から通っている方もおられる。兄弟や親類の訪問や定期的に以前から行っていたうどん店にご家族と外食に出かけられたり自宅に帰られる方もおられる。	事業所では、利用者が馴染みの美容院等を利用することを支援している。家族の協力を得て、一時帰宅等も支援している。事業所は、家族とともに利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話し好きな方は同じテーブルにしたり状態に応じて部屋替えをするなどコミュニケーションが取り易いよう工夫している。ユニット間での交流も有り日常的に広く関わり合いが持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に移られた施設に面会に行ったり在宅に帰られた方には電話連絡を入れその後の状況を確認するなど関係性を大切にしている。必要であれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの美容院に施設から通っている方もおられる。兄弟や親類の訪問や定期的な以前から行っていたうどん店にご家族と外食に出かけられたり自宅に帰られる方もおられる。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、会話や仕草から思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得て、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話し好きな方は同じテーブルにしたり状態に応じて部屋替えをするなどコミュニケーションが取り易いよう工夫している。ユニット間での交流も有り日常的に広く関わり合いが持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	退居後に移られた施設に面会に行ったり在宅に帰られた方には電話連絡を入れその後の状況を確認するなど関係性を大切にしている。必要であれば相談に応じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や職員、リハビリ担当者や栄養士などケア会議に参加して必要な意見を出し合い支援に努めている。検討後、ケアプランに反映している。状態が変わった時なども見直しを行っている。	職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、利用者や家族の意向を確認し、介護計画に反映している。ケア会議には、家族や職員、リハビリテーション担当者、栄養士等が出席している。利用者のできることや得意なことが継続できるよう、計画を作成している。定期的なモニタリングのほか、利用者の心身状況の変化に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の入居者の暮らしに関する個別記録を作成して介護計画に反映している。細かな気づきで現状を把握し職員間で共有し話し合いも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が殆ど面会に来られない方の買物の付き添いや日常の買い物などにも対応している。家族の支援の状態も様々ではあるが個々の状況に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人一人の状態に応じて生活の安定と広がりを持って生活出来るよう地域の商店や消防団、駐在所などにも協力を働き掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望の医療機関と連携を図り入居者の支援が適切に行えるよう支援している。又、家族の協力を得ながら他科受診も行っている。	事業所では、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診は、家族の協力を得て、支援している。受診結果は、家族と共有している。協力医療機関の協力を得て、利用者の健康管理を行っている。緊急時の協力体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて関係医療機関に相談したり健康管理や医療行為等適切に支援できている。看護職、介護職の連携が図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関と連携が図れており入居者の方が安心して治療できるよう必要な情報交換を行ったうえで支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に重度化した場合における看取りの指針を盛り込んでおり、入居時に説明している。重度化に備えて早期段階で家族や主治医、職員間で事業所で出来る事を理解して頂き今後の支援の仕方を検討できている。	契約時の段階で、重度化した場合や終末期における事業所の方針を利用者や家族に説明している。職員や関係者で話し合い、パジャマを着替えて共有フロアで過ごす時間を増やしていくなど、職員は家族や医療機関と連携し、寝たきりにならないよう予防に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと応急手当等の訓練を行っている。事業所にAEDを備えている為使用方法など職員が研修に参加し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の危機管理課の方に防災講座を開催してもらい災害が起こった時の施設での対応を具体的に勉強する機会があった。消防署、地元消防団、保険者、包括等にも参加して頂き協力体制を構築できた。定期的な避難訓練も行っている。	年2回、消防署や地元消防団、地域住民の協力を得て、火災や土砂災害等を想定した避難訓練を行っている。市や法人主催の防災会議や地域の会合にも参加して、災害時の協力体制を構築しているが、備蓄品の整備が十分ではない。	今後は、事業所独自の備蓄品を充実させ、管理することが望まれる。災害下の混乱時に、事業所が孤立した場合にも対応できるような環境整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーや自尊心に対し職員一人一人が注意して言葉かけやプライベート空間への配慮を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや、プライバシーの確保に努めている。さまざまな場面で、自己決定できるよう見守ったり、さりげなく声をかけたりして配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話を傾聴し希望や望みの把握に努めできる限り希望に添うよう努めている。日常での意思決定を尊重し洋服選びや飲み物など好みに合わせて個別で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて支援している。時間がかかっても出来る事は出来るだけ自分でして頂き支援が必要な時には対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院でカットされたり必要な方は化粧水や乳液をつけたり自分で整容されている。好きな服を自分で選んで着たり衣類の買物にも出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供する食事の形態はキザミやお粥など個別に対応している。梅干しや佃煮、ふりかけなど自分の好きなものを食事時食べられている。配膳したりテーブル拭きを自然の流れでされている。	食事は、事業所内で職員が調理している。利用者には、テーブル拭きや盛り付け、後片付けなど、できることで役割を担ってもらっている。煮炊きするにおいや包丁の音を感じたり、利用者と職員が会話を楽しみながら食事をとったりすることで、食事が楽しみなものになるよう工夫している。食事前には、口腔体操を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を主食、副食に分け記録、水分摂取量も一日を通じて職員全員が把握できるようにしており必要な栄養や水分が確保できるようにしている。水分量が足りない場合はゼリー飲料等飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の指示の下毎食後の口腔ケアを実施している。口腔内の残座物の確認や残存歯磨き、夜間には義歯の洗浄を行っている。口腔内の異常があれば歯科医師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等の使用は出来るだけ減らすような支援を行っている。入居者一人一人の状態に応じてトイレ誘導やポータブルトイレを使用してもらっている。個別に排泄の記録もとっている。	職員は、排泄記録を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者の仕草や表情から状況を把握し、さりげない声かけや誘導を行っている。状況に応じてポータブルトイレを使用するなど、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や水分摂取量を把握し便秘防止に努めている。個別でヤクルトやさつまいも、バナナ等を摂り対策されている方もいる。それでも便秘される方は必要に応じて薬が処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間は事業所が設定しているが体調や気分により入浴出来ない場合は別の日や時間に入浴して頂いている。入浴出来ない場合は清拭を行い清潔保持に努めている。	事業所では、少なくとも週2回は入浴することができるよう支援している。利用者の心身状況や希望に応じて入浴できるようにしている。特殊浴槽を整備し、利用者の身体状況に応じて活用し、安心して入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みや習慣に応じて生活用品を揃えている。季節に応じて快適に入眠出来るよう室温や衣類、寝具等にも気を付けている。電気毛布や湯たんぽを使用される方もあるが水分や湿度にも十分注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個別ファイルに服薬している薬の情報が有り職員が使用目的や副作用なども把握できるようにしている。内容も随時更新しており全職員で共通認識できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の好みの飲み物や好き嫌いを把握しており提供できている。好きなお菓子などは一人一人違うので個別で好きなものを食べて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回買い物日を設け買い物に出かけている。天気の良い日には近所の神社まで散歩に出かけ、歩行が困難な方も車椅子で出かけている。	事業所では、気候のいい日に、車いすの利用者も含めて全員で近所の神社等に散歩に出かけている。家族の協力を得て、一時帰宅したり、知人宅へ行ったりすることもある。月1回、買い物にでかけたり、季節の花見、遠足などの外出の機会を設けたりして生活の楽しみとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をされている方もおられ施設で通帳やお金の保管は支援をしている。お小遣い帳で現金は把握しているので買い物希望があれば職員と一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時施設の電話を利用して頂いている。自分で携帯電話を持っていて自由に電話の利用をされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所や居室の飾りつけに季節感を取り入れる様にしている。季節に応じて温度や湿度の管理を行っており、外が明るい時には必要以上に電気を付けないようにし落ち着いて過ごして頂けるよう工夫している。入居者の訴えに応じて調整している。	共用空間は明るく、清潔感や室温等に配慮している。調理の音やにおいを感じながら、利用者が会話を楽しんだり、洗濯たみをしたりしながら、それぞれがゆったり過ごすことのできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっておりプライベート空間が確保できる。トイレや入浴時には十分配慮し支援している。ユニットが違って行き来があったり、お互いの部屋やフロアのソファで好きなように過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は馴染みの物を取り入れ快適な空間で過ごして頂いている。植物を部屋に置くなど趣味や好きなものに囲まれて限られた空間ではあるが居心地良く生活されている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真、好みのものを持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりが好きなものに囲まれて、居心地よく過ごすことのできる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の活動を妨げないようにフロアや居室内の障害物を撤去している。居室やトイレなどの表示を大きくし迷わない工夫をし出来る限り自立して生活が送れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境づくり、個性を大切に、地域家族とのふれあいを理念に職員が一丸となって支援に取り組んでいる。毎朝の朝礼時にも復唱し再確認を行い、全員が共通理念を持ち実践に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事で地元小学生や阿波踊りの連の訪問があったり、お祭りや一斉清掃などにも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに必ず地域の方に参加して頂き事業所の取り組みや現状を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回現状報告や意見交換を行っている。そこで出た意見は職員で話し合いを持ち改善に向けて努力している。運営推進会議にも消防署や駐在所にも声をかけ可能な場合は参加して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	みよし広域連合の保険者や包括支援センター等行政関係者に運営推進会議に参加して頂き日頃の施設の取り組みや現状を報告したり、意見を伺う機会があり協力を得られやすい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議に身体拘束適正化委員会も設けており定期的に話し合いがもたれている。職員が勉強会に参加している。玄関の施錠は自動的に行うシステムになっているが求めに応じその都度開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行いどのような行為が虐待になるのか具体的に学べる機会を設けている。日頃の業務においても職員間で相互確認しながら業務を行っている。又職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っている。過去において日常生活自立支援事業の活用経験があり、その時に制度について学べる機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や改定の際には書面及び口頭で説明を行っており疑問点は残さないよう心掛けている。又、それ以外でも質問があればその都度説明を行い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の家族会でアンケート用紙を事前に渡し無記名で記入して頂き意見や要望を聴いている。回収した要望などは施設の会議などで話し合い改善している。すぐに実践できるものはすぐに対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会など職員間で意見を述べる機会を設けており、会議には理事長、事務長、施設長も参加しており職員の意見を聴く機会がある。又、個別に施設長が職員と話をする機会も日常を通してある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務評価は適切に行えている。又職員の意見に耳を傾けやりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて実務者研修にも30年元年度それぞれ2名参加している。シフト調整は優先的に行い資格取得に向けたスキルアップがし易い環境である。内外の研修にも参加出来るよう情報提供も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者との交流を図る機会が多い。他施設やケアマネジャーのネットワークで情報収取や連携を図れている。近隣に事業者が多い事も有り訪問し話し合う機会もあり質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人、家族共に不安も多い為十分なアセスメントをしたうえで傾聴しながら不安を取り除けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見や要望、不安に思うことなどを聴きながら施設で出来る事、出来ない事など分かり易く説明している。施設に気軽によって頂き施設の現状やスタッフとの会話で信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い関連施設やそれ以外の施設でも相談者の状態に応じて適切な利用が出来るよう説明を行っている。必要であれば問い合わせを行いサービスが滞らないよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設に入居されている方も職員も一つの家族のような関係づくりができており自然に生活出来ており遠慮なく言い合える関係づくりができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度担当が記入したメッセージカードを郵送し入居者様の施設での様子や行事など伝えている。ご家族様と連携を図り入居者様を共に支えていくうえで信頼関係を深め連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に施設から通っている方もおられる。兄弟や親類の訪問や定期的に以前から行っていたうどん店にご家族と外食に出かけられたり自宅に帰られる方もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話し好きな方は同じテーブルにしたり状態に応じて部屋替えをするなどコミュニケーションが取り易いよう工夫している。ユニット間での交流も有り日常的に広く関わり合いが持てている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に移られた施設に面会に行ったり在宅に帰られた方には電話連絡を入れその後の状況を確認するなど関係性を大切にしている。必要であれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの美容院に施設から通っている方もおられる。兄弟や親類の訪問や定期的に以前から行っていたうどん店にご家族と外食に出かけられたり自宅に帰られる方もおられる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話し好きな方は同じテーブルにしたり状態に応じて部屋替えをするなどコミュニケーションが取り易いよう工夫している。ユニット間での交流も有り日常的に広く関わり合いが持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	退居後に移られた施設に面会に行ったり在宅に帰られた方には電話連絡を入れその後の状況を確認するなど関係性を大切にしている。必要であれば相談に応じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や職員、リハビリ担当者や栄養士などケア会議に参加して必要な意見を出し合い支援に努めている。検討後、ケアプランに反映している。状態が変わった時なども見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の入居者の暮らしに関する個別記録を作成して介護計画に反映している。細かな気づきで現状を把握し職員間で共有し話し合いも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が殆ど面会に来られない方の買物の付き添いや日常の買い物などにも対応している。家族の支援の状態も様々ではあるが個々の状況に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人一人の状態に応じて生活の安定と広がりを持って生活出来るよう地域の商店や消防団、駐在所などにも協力を働き掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望の医療機関と連携を図り入居者の支援が適切に行えるよう支援している。又、家族の協力を得ながら他科受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて関係医療機関に相談したり健康管理や医療行為等適切に支援できている。看護職、介護職の連携が図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関と連携が図れており入居者の方が安心して治療できるよう必要な情報交換を行ったうえで支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に重度化した場合における看取りの指針を盛り込んでおり、入居時に説明している。重度化に備えて早期段階で家族や主治医、職員間で事業所で出来る事を理解して頂き今後の支援の仕方を検討できている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと応急手当等の訓練を行っている。事業所にAEDを備えている為使用方法など職員が研修に参加し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の危機管理課の方に防災講座を開催してもらい災害が起こった時の施設での対応を具体的に勉強する機会があった。消防署、地元消防団、保険者、包括等にも参加して頂き協力体制を構築できた。定期的な避難訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーや自尊心に対し職員一人一人が注意して言葉かけやプライベート空間への配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話を傾聴し希望や望みの把握に努めできる限り希望に添うよう努めている。日常での意思決定を尊重し洋服選びや飲み物など好みに合わせて個別で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて支援している。時間がかかっても出来る事は出来るだけ自分でして頂き支援が必要な時には対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院でカットされたり必要な方は化粧水や乳液をつけたり自分で整容されている。好きな服を自分で選んで着たり衣類の買物にも出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供する食事の形態はキザミやお粥など個別に対応している。梅干しや佃煮、ふりかけなど自分の好きなものを食事時食べられている。配膳したりテーブル拭きを自然の流れでされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を主食、副食に分け記録、水分摂取量も一日を通じて職員全員が把握できるようにしており必要な栄養や水分が確保できるようにしている。水分量が足りない場合はゼリー飲料等飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の指示の下毎食後の口腔ケアを実施している。口腔内の残座物の確認や残存歯磨き、夜間には義歯の洗浄を行っている。口腔内の異常があれば歯科医師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等の使用は出来るだけ減らすような支援を行っている。入居者一人一人の状態に応じてトイレ誘導やポータブルトイレを使用してもらっている。個別に排泄の記録もとっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や水分摂取量を把握し便秘防止に努めている。個別でヤクルトやさつまいも、バナナ等を摂り対策されている方もいる。それでも便秘される方は必要に応じて薬が処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間は事業所が設定しているが体調や気分により入浴出来ない場合は別の日や時間に入浴して頂いている。入浴出来ない場合は清拭を行い清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みや習慣に応じて生活用品を揃えている。季節に応じて快適に入眠出来るよう室温や衣類、寝具等にも気を付けている。電気毛布や湯たんぽを使用される方もあるが水分や湿度にも十分注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個別ファイルに服薬している薬の情報があり職員が使用目的や副作用なども把握できるようにしている。内容も随時更新しており全職員で共通認識できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の好みの飲み物や好き嫌いを把握しており提供できている。好きなお菓子などは一人一人違うので個別で好きなものを食べて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回買物日を設け買い物に出かけている。天気のいい日などには近所の神社まで散歩に出かけ、歩行が困難な方も車椅子で出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をされている方もおられ施設で通帳やお金の保管は支援をしている。お小遣い帳で現金は把握しているので買い物希望があれば職員と一緒に出かけしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時施設の電話を利用して頂いている。自分で携帯電話を持っていて自由に電話の利用をされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所や居室の飾りつけに季節感を取り入れる様にしている。季節に応じて温度や湿度の管理を行っており、外が明るい時には必要以上に電気を付けないようにし落ち着いた過ごして頂けるよう工夫している。入居者の訴えに応じて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっておりプライベート空間が確保できる。トイレや入浴時には十分配慮し支援している。ユニットが違っても行き来があったり、お互いの部屋やフロアーのソファで好きなように過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は馴染みの物を取り入れ快適な空間で過ごして頂いている。植物を部屋に置くなど趣味や好きなものに囲まれて限られた空間ではあるが居心地良く生活されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の活動を妨げないようにフロアーや居室内の障害物を撤去している。居室やトイレなどの表示を大きくし迷わない工夫をし出来る限り自立して生活が送れるよう支援している。		